



メタバースの投資テーマ⑤

グローバル仮想世界株式戦略ファンド
愛称：フューチャーメタバース
追加型投信/内外/株式

▶ 本レポートでは、足元の基準価額の動向に加え、当ファンド主要投資対象のグローバルメタバースファンド(円建て、ヘッジなしクラス)における投資テーマと関連銘柄についてご紹介いたします。

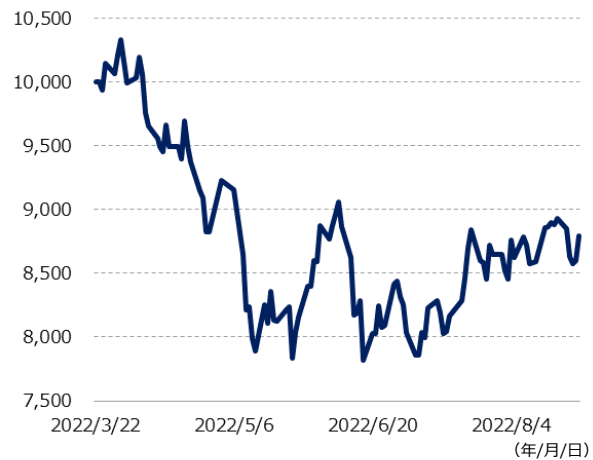
足元の基準価額の推移と投資環境

当ファンドの8月26日現在の基準価額は1万口当たり8,788円となりました。設定(2022年3月22日)来の基準価額の推移を見ますと、堅調なスタート後、4月中旬から下落基調を辿り、一時8,000円を割り込む場面もありましたが、直近では8,000円台半ばで底堅い動きとなっています。(図表1)

足元の投資環境は、インフレ抑制を目的とした欧米金融当局によるアグレッシブな金融引き締めが、**景気後退を引き起こすとの懸念**が強まっている状況です。引き続き、**金融当局がインフレを抑え込みつつ経済をソフトランディング(軟着陸)出来るか**がマーケットの焦点であるものの、足元で半導体などの供給制約が緩和、原油等の商品価格も下落するなど、**インフレがピークアウトする可能性が高まっています**。インフレ鎮静化には依然時間を要するとみられますが、**徐々に経済のソフトランディング期待が高まっていく**と考えます。

[図表1. 設定来の基準価額の推移]

(円) (期間：2022/3/22～2022/8/26、日次)



※基準価額は1万口当たり、信託報酬控除後です。
※グラフは過去の実績であり、将来の成果を示唆又は保証するものではありません。

2023年、ついにアップルが動く？

今日では誰もが手にするスマートフォン。その普及を決定づけたのは2007年に米アップル社が「iPhone」を発売したことでしょう。

アップル社の製品は、「カテゴリーを定義する」と言われています。スマートフォンではiPhoneが、タブレットではiPadが、またスマートウォッチではアップルウォッチがカテゴリーの「スタンダード」であり、他社がアップル社と競合するにはアップル製品との差別化を明確にする必要に迫られます。

2023年以降、アップル社が、満を持して「**VRゴーグル**」「**ARグラス**」といった**メタバース製品を投入**すると見られています。本稿ではアップル社の動きを詳しく見ていきたいと思います。

[図表2. アップル社の主要製品]

発売	製品名	2021年度売上
2007年	iPhone	1,910億米ドル
1998年	iMac	350億米ドル
2010年	iPad	310億米ドル
2015年	アップルウォッチ	180億米ドル
2016年	エアポッズ	150億米ドル
2023年(予想)	VRゴーグル	?
2023年(予想)	ARグラス	?

(出所) 各種資料よりニューバーガー・バーマン作成

<本資料に関してご留意いただきたい事項>

■本資料は情報提供を目的として岡三アセットマネジメント株式会社が作成したものであり、ファンドの投資勧誘を目的として作成したものではありません。■本資料に掲載されている市況見通し等は、本資料作成時点での当社の見解であり、将来予告なしに変更される場合があります。また、将来の運用成果を保証するものではありません。■本資料は、当社が信頼できると判断した情報を基に作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■投資信託の取得の申込みにあたっては、投資信託説明書(交付目論見書)をお渡ししますので必ず内容をご確認のうえ、投資判断はおお客様ご自身で行っていただきますようお願いいたします。

VRゴーグルとARグラス

アップル社は、これまで4年以上の歳月をかけてAR(拡張現実)・VR(仮想現実)製品の開発に注力していると見られています。VRヘッドセットについては、今のところ米メタ・プラットフォームズ社による「オキュラス」ブランドのデバイスが市場拡大を牽引しています。一方で、この「オキュラス」を実際に使用して仮想空間を体験されたことがある方は、ヘッドセットが予想以上に重いといった感想を持つ方も多いでしょう。アップル社は自社の要求水準を満たすため、開発に時間をかけており、特に**デバイスの軽量化とカメラ性能の高度化**に注力しているというのが通説となっています。現時点でアップル社から公式発表はないものの、株式市場では**2023年早々にもアップル社がVRゴーグルを投入**するとの見方が強まっています。また、より軽量の眼鏡型のARグラスの開発にも注力しており、2023年～2024年のタイミングで投入してくる可能性があります。

VRゴーグルとは、視界を完全に遮蔽し、仮想世界に没入するためのデバイスです。アップル社のVRゴーグルでは、専用のアプリストアが設置され、ゲームやVR動画配信等のサービスが利用可能になるでしょう。また、iPhoneをはじめ複数の機器と連携も可能となる見込みであり、様々な新サービスの展開が期待されています。同社のVRゴーグルはPCやスマートフォンが無くても単独で動作する「スタンドアロン型」となる見込みであり、ゴーグル本体にプロセッサやセンサー等が搭載されると見られています。

ARグラスとは、眼鏡型のデバイスであり、現実世界にバーチャルな情報を重ねて表示できる機能を持ちます。複雑な情報を投影しようとすると高いコンピューティング性能が必須ですが、軽量の眼鏡に全て搭載するのは至難であるといえます。このため、当初投入されるARグラスは、iPhoneのコンピューティングを活用し、連動して作動するような形になる可能性があります。現実世界に手軽にバーチャル情報を投影できるARグラスが普及すれば、ゲームやエンターテインメントのみならず、ビジネス用途など市場の裾野が拡大してゆくことが期待されています。

VRゴーグル



ARグラス



※ 上記はイメージ図です。

メタバース市場の本格拡大の号砲となるか

アップル社は、「業界初」として製品投入をすることは少なく、他社製品が出た後に、カテゴリーを席捲するデザインや機能性を持つ革新的な製品を「後出し」で投入するケースが多いといえます。製品力でシェアを取れる自信があるので、他社の動きを気にして急ぐ必要がないのです。このアップルが革新的なメタバース関連デバイスを満を持して投入してくることは、**メタバース市場の本格拡大の号砲となる可能性**があり、注目しています。

＜本資料に関してご留意いただきたい事項＞

■本資料は情報提供を目的として岡三アセットマネジメント株式会社が作成したものであり、ファンドの投資勧誘を目的として作成したものではありません。■本資料に掲載されている市況見通し等は、本資料作成時点での当社の見解であり、将来予告なしに変更される場合があります。また、将来の運用成果を保証するものではありません。■本資料は、当社が信頼できると判断した情報を基に作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■投資信託の取得の申込みにあたっては、投資信託説明書(交付目論見書)をお渡しますので必ず内容をご確認のうえ、投資判断はおお客様ご自身で行っていただきますようお願いいたします。

投資先ファンドにおけるAR/VRデバイス関連の投資銘柄例のご紹介

LGイノテック（韓国、メタ・デバイス関連）

メタバース

× AR/VRデバイス

業種：情報技術

(GICS産業サブグループ：テクノロジー・ハードウェアおよび機器)

【運用チームによる銘柄選択の主なポイント】

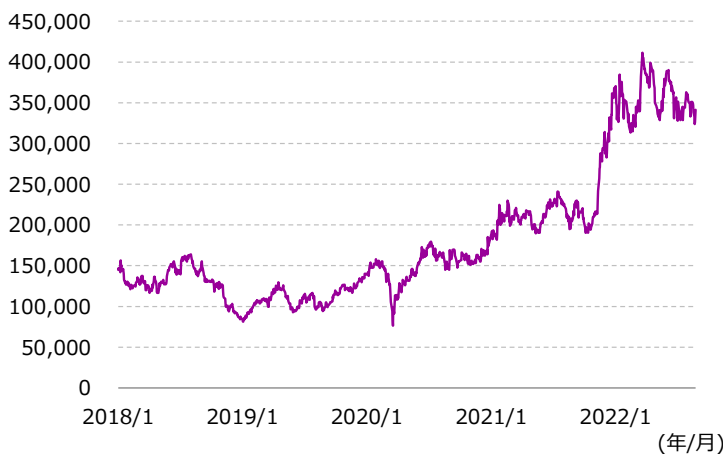
◎ 企業概要

- 韓国の電子部品メーカーです。1970年に創業され、ディスプレイ、カメラ、通信機器を構成する様々な**光学製品、電子部品、材料等に強み**を持っています。
- LGグループの一角であり、LG電子が最大株主です。LG電子やLGディスプレイは主要な顧客でもあり、**同社グループのエレクトロニクス事業における競争力の根幹**を支える役割を担っています。

〔図表3.LGイノテックの株価推移〕

(期間：2018/1/2～2022/8/25、日次)

(韓国ウォン)



◎ 投資のポイント

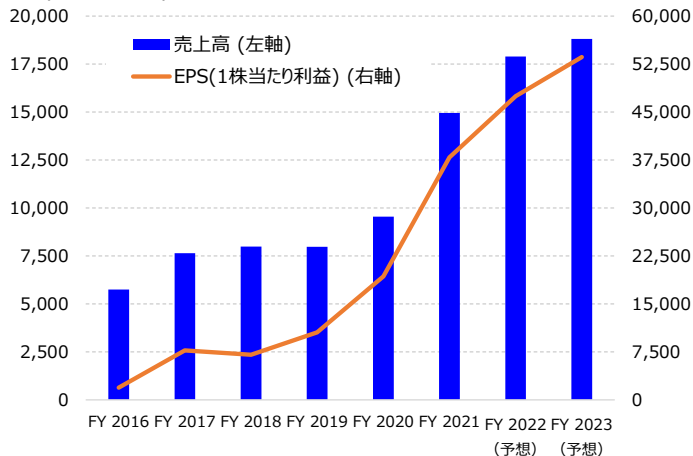
- 同社は、光の飛行時間(計測装置から発した光が被写体で反射し、再び計測装置まで戻ってくるまでの時間)を計測し、対象物までの距離計測を行う「**TOF(Time of Flight)モジュール**」に強みを持っています。
- アップル社のVRゴーグル向けに同社はTOFモジュールの供給契約を獲得しており、ARグラス向けにも供給する可能性が高いと報じられています。
- アップル社製品中心に、**AR・VRデバイスの成長が同社業績の牽引役となる可能性**に注目されます。

〔図表4.LGイノテックの売上高・EPSの推移〕

(期間：2016年～2023年)

(10億韓国ウォン)

(韓国ウォン)



(出所) 上記のグラフは、Bloombergのデータを基に岡三アセットマネジメント作成

※ 上記の個別銘柄はあくまで説明のための例示であり、投資先ファンドの組入れを示唆・保証するものではありません。また、特定銘柄の売買等の推奨、価格等の上昇や下落を示唆するものではありません。

<作成：運用本部>

<本資料に関してご留意いただきたい事項>

■本資料は情報提供を目的として岡三アセットマネジメント株式会社が作成したものであり、ファンドの投資勧誘を目的として作成したものではありません。■本資料に掲載されている市況見通し等は、本資料作成時点での当社の見解であり、将来予告なしに変更される場合があります。また、将来の運用成果を保証するものではありません。■本資料は、当社が信頼できると判断した情報を基に作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■投資信託の取得の申込みにあたっては、投資信託説明書(交付目論見書)をお渡しますので必ず内容をご確認のうえ、投資判断はお客様ご自身で行っていただきますようお願いいたします。

グローバル仮想世界株式戦略ファンド（愛称 フューチャーメタバース）に関する留意事項
【岡三アセットマネジメントについて】

商号：岡三アセットマネジメント株式会社

岡三アセットマネジメント株式会社は、金融商品取引業者として投資運用業、投資助言・代理業および第二種金融商品取引業を営んでいます。登録番号は、関東財務局長(金商)第370号で、一般社団法人投資信託協会および一般社団法人日本投資顧問業協会に加入しています。

【投資リスク】

- 投資者の皆様は投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。投資信託は預貯金と異なります。投資信託財産に生じた利益および損失は、すべて投資者の皆様へ帰属します。ファンドは、国内外の株式等値動きのある有価証券等に投資しますので、組入れた有価証券等の価格の下落等の影響により、基準価額が下落し、損失を被ることがあります。また、外貨建資産に投資しますので、為替相場の変動により損失を被ることがあります。
- ファンドの主な基準価額の変動要因としては、「株価変動リスク」、「為替変動リスク」、「信用リスク」、「流動性リスク」があります。その他の変動要因としては「カントリーリスク」があります。

※基準価額の変動要因は上記のリスクに限定されるものではありません。

【その他の留意点】

- ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定(いわゆるクーリングオフ)の適用はありません。
- 投資信託は預金商品、保険商品ではなく、預金保険、保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、登録金融機関が取扱う投資信託は、投資者保護基金の対象とはなりません。投資信託の設定・運用は投資信託委託会社が行います。
- ファンドは、大量の解約が発生し短期間で解約資金を手当てする必要性が生じた場合や主たる取引市場において市場環境が急変した場合等に、一時的に組入資産の流動性が低下し、市場実勢から期待できる価格で取引できないリスク、取引量が限られてしまうリスクがあります。これにより、基準価額にマイナスの影響を及ぼす可能性や、換金申込の受付が中止となる可能性、換金代金の支払が遅延する可能性があります。
- 分配金は、預貯金の利息とは異なり、ファンドの純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。分配金は、計算期間中に発生した収益を超えて支払われる場合があるため、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。また、投資者の購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がりがあった場合も同様です。
- 投資対象とする投資信託証券にかかる購入・換金申込みの受付の中止および取消、取引所における取引の停止、外国為替取引の停止、決済機能の停止、その他やむを得ない事情があるときは、購入・換金申込みの受付を中止することや、すでに受付けた購入・換金申込みの受付を取消することがあります。
- 詳しくは、「投資信託説明書(交付目論見書)」の「投資リスク」をご参照ください。

【お客様にご負担いただく費用】

<お客様が直接的に負担する費用>

- 購入時
 - 購入時手数料：購入金額(購入価額×購入口数)×上限3.3% (税抜3.0%)
詳しくは販売会社にご確認ください。
- 換金時
 - 換金手数料：ありません。
 - 信託財産留保額：ありません。

<お客様が信託財産で間接的に負担する費用>

- 保有期間中
 - 運用管理費用(信託報酬)
 - ：純資産総額×年率1.298%(税抜1.18%)
 - 運用管理費用(信託報酬)の実質的な負担
 - ：純資産総額×年率1.948%程度
 - 実質的な負担とは、ファンドが投資対象とする投資信託証券の信託報酬を含めた報酬です。なお、実質的な運用管理費用(信託報酬)は目安であり、投資信託証券の実際の組入比率により変動します。
 - その他費用・手数料
 - 監査費用：純資産総額×年率0.0132% (税抜0.012%)
 - 有価証券等の売買に係る売買委託手数料、投資信託財産に関する租税、信託事務の処理に要する諸費用を信託財産でご負担いただきます。また、投資対象とする投資信託証券に係る前記の費用等、海外における資産の保管等に要する費用を間接的にご負担いただきます。(監査費用を除くその他費用・手数料は、運用状況等により変動するため、事前に料率・上限額等を示すことはできません。)
 - お客様にご負担いただく費用につきましては、運用状況等により変動する費用があることから、事前に合計金額もしくはその上限額またはこれらの計算方法を示すことはできません。
 - 詳しくは、「投資信託説明書(交付目論見書)」の「手続・手数料等」をご参照ください。

グローバル仮想世界株式戦略ファンド（愛称 フューチャーメタバース）
販売会社一覧

受益権の募集の取扱い、投資信託説明書(交付目論見書)、投資信託説明書(請求目論見書)及び運用報告書の交付の取扱い、解約請求の受付、買取請求の受付・実行、収益分配金、償還金及び解約金の支払事務等を行います。なお、販売会社には取次証券会社が含まれる場合があります。

(2022年8月29日現在)

商号	登録番号	加入協会			
		日本証券業協会	一般社団法人 日本投資 顧問業協会	一般社団法人 金融先物 取引業協会	一般社団法人 第二種金融商品 取引業協会
(金融商品取引業者)					
岡三証券株式会社	関東財務局長(金商)第53号	○	○	○	○
岡三にいがた証券株式会社	関東財務局長(金商)第169号	○			
寿証券株式会社	東海財務局長(金商)第7号	○			
三縁証券株式会社	東海財務局長(金商)第22号	○			
静岡東海証券株式会社	東海財務局長(金商)第8号	○			
株式会社証券ジャパン	関東財務局長(金商)第170号	○			
JIA証券株式会社	関東財務局長(金商)第2444号	○			○
野畑証券株式会社	東海財務局長(金商)第18号	○			○

※岡三証券株式会社は、一般社団法人日本暗号資産取引業協会にも加入しております。

＜本資料に関するお問合わせ先＞

フリーダイヤル **0120-048-214** (9:00～17:00 土・日・祝祭日・当社休業日を除く)